

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	064 -	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課	
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計		
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 - 項 - 目)			
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	3-1-2 老人福祉費			
	法定受託事務の有無	-				
	その他(関係計画、要綱等)	✓	シニアクラブ運営事業費補助金交付要綱、シニアクラブ連合会運営事業費補助金交付要綱、敬老金贈呈要綱、長生学園実行委員会設置要綱、シルバーハウジング生活援助員派遣事業実施要綱			
	事業開始の背景、経緯等	高齢者等の健康の維持や日常生活の助長を図ることで、安心して生活できる環境を整備することを目的とする。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 健康的な日常生活維持を図るため、高齢化や認知症の進行により、心身機能が低下している高齢者等に対し、生活上の福祉サービスの支援を行う。			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の65歳以上の市民			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるようにすること。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 老人福祉事務事業	改善・見直し	④ 高齢者福祉事業・生涯学習事業	改善・見直し
	② 敬老事業	改善・見直し	⑤ 高齢者住宅等安心確保事業	拡充	
	③ 長生学園事業	改善・見直し	⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
		事業費(A)	千円	予算	28,191	31,823	27,086	24,658
			決算	27,110	30,436	25,293	29,614	
	人件費(B)	千円	決算	8,850	12,493	9,611	8,758	
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	35,960	42,929	34,904	38,372	

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
	A	シニアクラブ会員数	人	目標	1,490	1,550	1,610	1,549
			実績	1,547	1,549	1,536	1,438	
B	長生学園参加者	人	目標	410	410	400	400	357
			実績	391	408	371	337	
C			目標					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 平成30年度会員数1,438人+76人(1クラブ平均値)×3クラブ増加見込み=1,666人								
B 平成30年度参加者337人+20人								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 高齢者福祉事業は、近隣市町でも同様のサービスが提供されている。平成31年度から高齢者福祉事業・生涯学習事業を介護保険特別会計の地域支援事業費として整理した。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を達成することができている。着実に高齢者の生活ニーズに必要な福祉サービスの提供ができています。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 長生学園事業については、行政の業務を市民で構成する実行委員会に移している。将来的には、事業費を補助金として整理するなど、市民主体の事業となるように取組を進める。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 急速な高齢化の進行によって、現行の福祉サービスを提供し続けることは、将来的に財源不足になることが予想されるため、介護予防、日常生活支援総合事業との連携や見直しが必要である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 高齢者にとって福祉サービスが利用しやすくなるよう、制度の周知、申請方法等の改善に努めていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) サービスの対象要件や事業の統廃合を進めながら、サービスが必要な人にきちんと利用されるように利便性の向上を図る。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。・長生学園の実行委員会の自立を促すとともに、長年行っている事業内容も見直しを検討してください。・他課が実施する類似講座等との統合を検討してください。・高齢者への入泉券の助成について見直しを検討してください(高齢者優待事業との重複)。・敬老事業について、行政サービス公平性の面から見直しを図ってください。・長生学園の実行委員会の事務局機能や当日スタッフとしての役割について、事務局の負担軽減(人件費を含む。)となるように見直しを図ってください。・生涯学習事業について、他の生涯学習事業(講座)との連携(統廃合など)を検討してください。・高齢者優待事業を含め、事業の意図と対象者である高齢者の活動内容を再確認し、各事業の見直しを検討してください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者福祉事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	①	老人福祉事務事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和40年(シニアクラブ)	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 概ね60歳以上の高齢者に対し、自発的に生きがい、健康、居場所づくりのための活動が実践できるように補助金を交付して活動を後方支援している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が要介護状態に成らないように、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしく生活することができるようにしたい。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	19,748	18,657	16,985	14,831	25,867
		決算	18,921	18,185	15,909	19,761	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) コンピュータ賃借料						4,324 千円	
(2) 老人福祉一般事務賃金						3,862 千円	
(3) 高齢者等移動支援事業委託						2,752 千円	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
会員数	人	見込	1,490	1,550	1,610	1,549	1,666
		実績	1,547	1,549	1,536	1,438	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
各単位シニアクラブが、地域の特性に応じた活動(健康事業、スポーツ、清掃、奉仕活動、文化活動、親睦・交流活動、組織運営活動等)を行っている。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

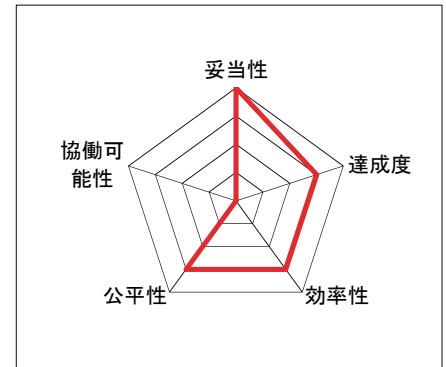
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 今後も高齢者の増加が見込まれ、地域で孤立しないような見守り活動(友愛活動)が望まれている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
14,831 千円 25,867 千円 11,036 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
シニアならではの経験や知識を生かされる公益的な事業展開をシニアクラブが主体となって事業の計画立案から事業の運営まで行うことができるよう行政として後方支援をする。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
平成30年度から活動内容を6つに分類し、多種多様な活動を実施することで補助金が増額される仕組み作りを行い、シニアクラブの活性化に努めた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市が補助金を交付し、個別のシニアクラブの自主的な方針活動にしたがって取り組む事業であるので、協働して取り組む事業がないため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
定年後も65歳まで働く高齢者が増加してきたことによって、会員となる母数が減少傾向にある。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
補助金を活用して活動を行った結果、どのような取組ができて、どのような効果があったのか明確に評価をしていく必要がある。 申請書類等の簡素化に努めているが、交付申請や実績報告書の内容に不備が多く見受けられる。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者福祉事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	②	敬老事業		予算区分	3-1-2 老人福祉費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	—		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市の住民基本台帳に登録されている75歳以上の方
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民自身が高齢社会の現状を認識し、高齢者福祉の推進に一層の理解を深めると共に健康で元気に過ごす意欲を持ってもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	5,802	6,731	3,564	3,448	3,402
		決算	5,491	6,213	2,800	3,376	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 敬老事業入泉券助成金						1,241 千円	
(2) 敬老金						1,050 千円	
(3) 敬老事業アトラクション委託						486 千円	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
入泉券	枚	見込	7,276	7,880	2,500	2,500	2,500
		実績	4,585	4,832	2,378	2,482	
敬老金贈呈数	人	見込	523	623	134	170	172
		実績	523	620	134	170	

<備考：活動の概要(30年度(2018))>
75歳以上にござらっせ入泉券1枚を贈呈。
数え88歳の方に5,000円、数え100歳の方に30,000円を贈呈。
その他、平成30年9月22日(土)に敬老事業催事を実施。参加者453人。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

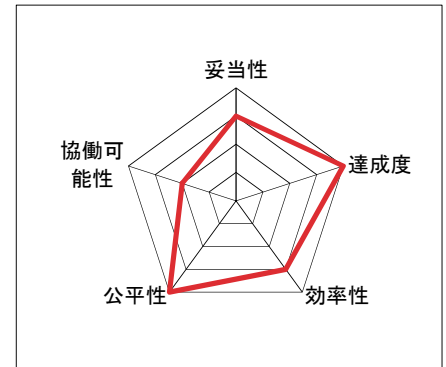
- ・H29年度 入泉券の交付枚数を2枚から1枚に変更
- ・H29年度 敬老金の対象者数を限定(数え75歳から数え100歳までの5歳刻みと100歳以上→数え88歳と数え100歳のみ)

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
3,448 千円	3,402 千円	△ 46 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	※新規行政評価対象	
・前年度【コメント】		
S票からの変更のため記載なし。 ※新規行政評価対象		
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
S票からの変更のため記載なし。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	4
協働可能性	2



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	-	-	-	-
実績	0	0	0	0
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市が企画・運営を行っていたため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

送迎バスのルートを見直し、ルート数を増やした。結果乗車人数及び催事の参加人数が増えた。
(ルート：4ルート→6ルート、乗車人数：64人→101人)

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

敬老金贈呈は市が行う必要があるが、催事部分は実行委員会を設置するなどして、少しずつでも移管を行う。
催事当日の来場者案内等を民生委員・児童委員が行っているが、催し物を含め少しずつ市民主体で実施することができるように見直す必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業(A票)名	高齢者福祉事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	③	長生学園事業		予算区分	3-1-2 老人福祉費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成3年度		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 対象：概ね60歳以上の方 手段：年1回、目的に応じた事業を実行委員会で企画・運営する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が地域で安心して暮らせるよう、自らが進んで地域行事に参加し、高齢者同士のつながりを強化させたい。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	1,723	1,961	1,912	1,912	1,912
		決算	1,783	1,810	1,967	2,022	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		日帰り親睦研修業務委託					1,677 千円
(2)		実行委員謝礼					345 千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
長生学園事業参加者	人	見込	410	410	400	400	400
		実績	391	408	371	337	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
年1回、概ね60歳以上の方を対象に長島温泉にバスで日帰り旅行をした。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

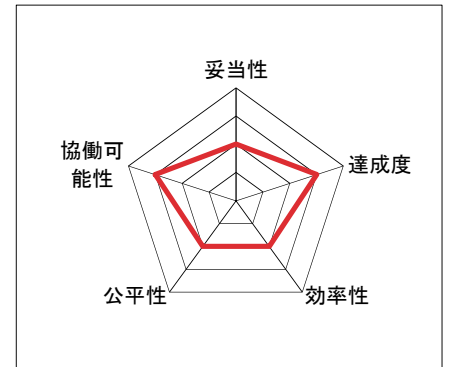
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成25年度より実行委員会形式で事業の企画・運営を行っている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,912 千円 1,912 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
市民主体の事業として実行委員会が中心となって行っているようにし、シニアクラブ事務局に事務を移管する。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
今まで市が担っていた事務の一部を実行委員会に移管した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 15	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	15	15	20	20
実績	14	13	16	
(2) 協働の状況 (30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
今まで市が担っていた事務の多くを実行委員会に移管した。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
参加者が限定される傾向があるため、広く参加を呼びかける必要がある。実行委員会形式で事業を行っているが、市の事務局が行う事務が多い。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市が事務局として行っている事務を、すべて実行委員会へ移管を行う。または補助金交付事業に移行する。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者福祉事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	④	高齢者福祉事業・生涯学習事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成15年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 市内在住かつ住所を有する60歳以上の者（講座開講中に60歳になる者も含む。） 【内容】 福祉の家で高齢者の健康増進、生きがいきづくり及び教養の向上を目的に、年4クール毎の講座を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者自ら進んで学びの場に参加し、高齢者同士のつながりを強化するための機会を拡充することによって、生きがいきづくり、介護予防、認知症予防につなげる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	—	3,483	3,534	3,346	—
		決算	—	3,239	3,525	3,330	—
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		一般事務嘱託員報酬				1,850	千円
(2)		生涯学習事業講師謝金				1,480	千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
参加人数	人	見込	—	459	373	546	—
		実績	—	381	552	490	—
開催講座数	講座	見込	—	25	34	31	—
		実績	—	25	34	31	—

<備考：活動の概要（30年度(2018)）>
 高齢者の健康増進、生きがいき作り及び教養の向上を目的に、福祉の家において、年4クールで、ヨガ、エアロビクス、アクアトレーニング等の運動系講座やカラオケ、編み物等の文化系講座を実施する。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
 平成27年度までは社協に事業を委託していたが、平成28年度より長寿課が事業を行うこととなった。また、平成30年度よりパソコン講座のみ生涯学習課の事業に移管した。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
3,346 千円	— 千円	— 千円

(2) 前年度の評価状況《参考》

- 前年度【今後の方向性】 拡充
- 前年度【コメント】 平成30年度は、複数の課で重複していた講座について整理したため、パソコン講座を生涯学習課に移行した。また、人気のヨガ講座の種類を増やしたり、男性の受講を促す目的で男性限定の運動講座を設定し、運動系講座の拡大を図る。

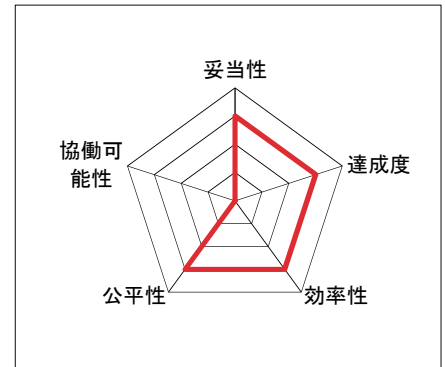
(3) 改善状況

(何をどのような状態に改善したのか)

生きがいきづくりや趣味活動の活性化と高齢者の健康づくりの活性化を一体的に進めるため、令和元年度から一般会計において行っていた事業を介護保険特別会計の地域いきいき事業に統合した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				

(2) 協働の状況 (30年度(2018))
 (協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
 市が企画・運営する講座であるため。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)

生きがいきづくりや趣味活動の活性化と高齢者の健康づくりの活性化を一体的に進めるため、令和元年度から一般会計において行っていた事業を介護保険特別会計の地域いきいき事業に統合した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)

市の事務手続の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者福祉事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	⑤	高齢者住宅等安心確保事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成18年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・ 65歳以上の夫婦世帯 ・ 65歳以上の親族からなる二人世帯 ・ 65歳以上の単身者世帯 【内容】 県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣を行う。
	意図 (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	918	991	1,091	1,121	1,138
		決算	915	989	1,092	1,125	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		高齢者住宅生活援助業務委託				1,065	千円
(2)		通信運搬費				43	千円
(3)		光熱水費				16	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
利用者数	世帯	見込	24	24	24	24	24
		実績	22	24	24	24	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣を行った。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

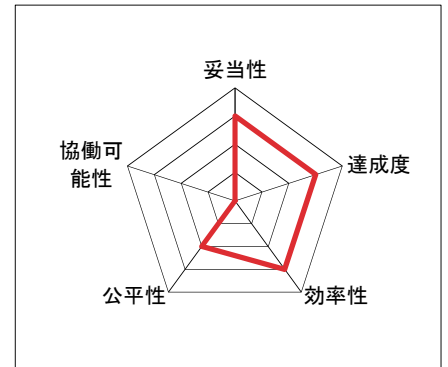
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 入居者の高齢化が進んでおり、日常生活における相談、支援の必要性が高まってきている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,121 千円 1,138 千円 17 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・ 前年度【今後の方向性】 現状維持
・ 前年度【コメント】
入居者が安心して生活できるように、引き続き相談、支援体制の充実を図る。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
継続的に実施することで、高齢者が安心して生活できる環境を整備した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	2
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
高齢者住宅への生活援助員派遣事業であり、共同の余地がないため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
生活援助員の派遣により、高齢者が安心して生活することができる。 入居者の高齢化によって、相談内容も複雑化しており、支援の在り方を見直す必要がある。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
入居者の高齢化が進む中、入居者が安心して生活できる環境整備を図るため、引き続き相談、生活援助員の派遣の支援体制の充実を図る。

7. 今後の方向性

拡充